

6 乳牛との接し方

乳牛はその牧場を写す鏡になります... 扱いやすい乳牛それはあなた次第です。

(1) 乳牛と接するときの約束

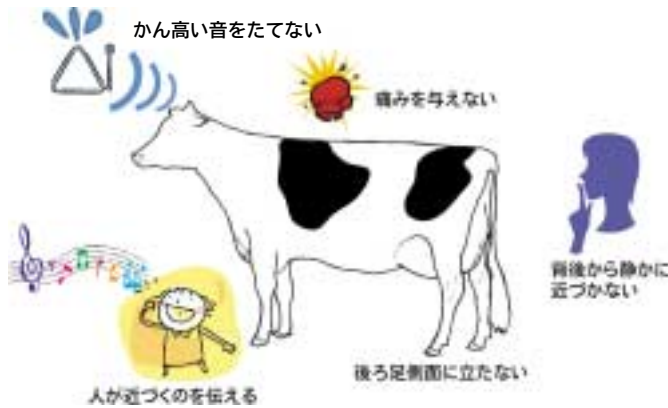


図12 乳牛と接するときの約束

この6つの約束を守り接するようにしましょう。

乳牛は臆病な動物です。この臆病な乳牛と接する時に守らなければならない事が6つあります(図12)。

<6つの約束>

- かん高い大きな音をたてない
- 痛みを与えない
- 背後から静かに近づかない
- 後足側面に立たない
- 人が近づくのを伝える
- 急に触らない

(2) 乳牛は音に敏感

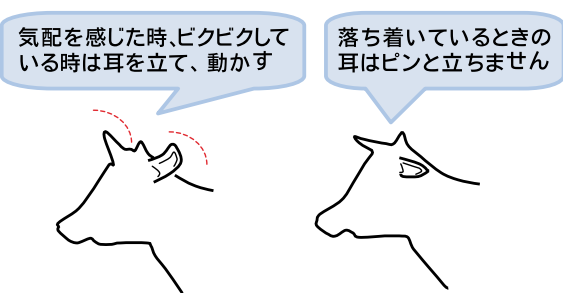


図13 耳の立ち方の違い

乳牛は音に敏感で、特にかん高い音に反応し警戒する習性があります。

日常と違う気配を感じ取った時や、慣れない環境、見知らぬ気配を感じ取った時は耳を立て、様子をうかがいます(図13)。この時は気が立っているので、ゆっくりとなだめながら接するようにします。時には時間を要する場合があります。

(3) 乳牛の死角

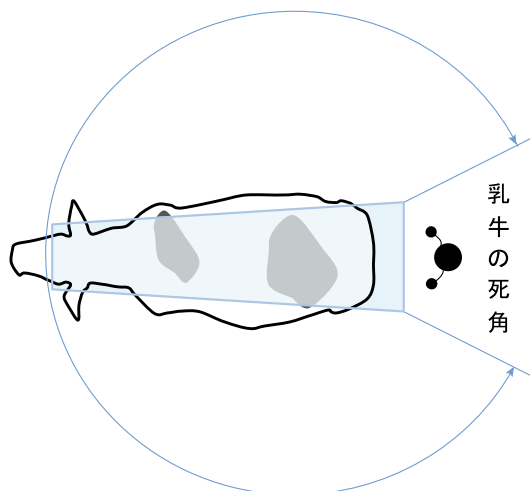


図14 乳牛の死角

乳牛の視野は310度ありますが、真後ろとなる50度は死角になります(図14)。

接する時は死角になる位置からは近づかず、視野に収まる範囲から接するようにしましょう。万が一、後方から近づく時は、人間が近づくことを声などの音で知らせ、乳牛が人の気配を認識しているのを確認してから近づきましょう。そうしなければ驚き、急に足を上げたり、転倒したりすることになりますので、注意してください。

左右に視野が広い一方、垂直の視野は狭く、尿溝等の深い溝がある場合は警戒し渡りたがらない習性があります。この場合、深さを感じさせないような工夫が必要です。

(4) 乳牛の後足側面に立たない

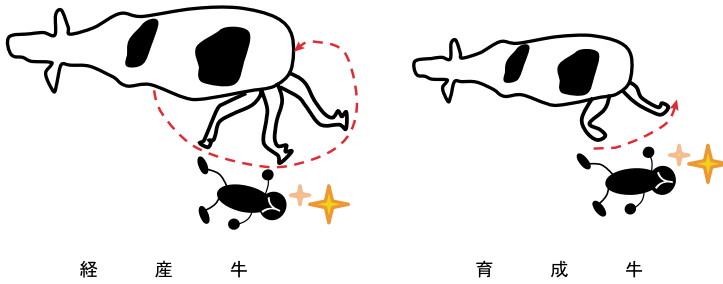


図15 乳牛の蹴る範囲

乳牛の背後から急に後足付近に近づいてはいけません。

急に近づくことで警戒心から頭を下げ、後足を上げ蹴る行動をとります。

蹴る範囲は育成牛では幅が狭く、経産牛では広くなります(図15)。

経産牛では最大80cm位の高さで蹴り上げますが、警戒の強さ(驚き度合い)によって高さや範囲は変わってきます。いつもの作業だから大丈夫だと急に近づき蹴られるといった事故は後を絶ちません。驚かすような人間側の行動は止め、作業時は一声かけて接するようにしましょう。

(5) 痛みを与えない

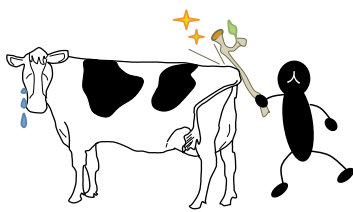


図16 乳牛へ痛みを与えない

乳牛も人間同様に痛みを感じます。しかし、この痛みには乳牛は耐えるという性質があります。

耐えるからといって、力一杯痛みを与えると恐怖心を抱き、人間との関係が崩れます。決して警戒心を抱かす痛みは与えてはいけません。もし乳牛との関係が崩れると乳量にまで影響を与える事になります。

<関係が崩れた時の乳牛の行動>

- ・人間が近づくと急に起き上がったり逃げたりする
- ・搾乳中落ち着きがなくなり足を上げるようになる
- ・人間の声を聞いただけで、方向転換し距離を保とうとする行動が現れる

(6) 人間と乳牛の良い関係構築は仔牛から

仔牛の時に築いた人間との関係は一生続きます。生後からなでる等のスキンシップを図ることで、距離感が縮まります。

<スキンシップのメリット>

- ・人間と接する時間が長くなり、依存度が高まる
- ・依存度が高まることで、良好な関係が築ける
- ・適度に仔牛に触れることで成牛になってもおとなしい

過剰に可愛がり過ぎると、成牛になっても距離感が無くなり発情時に乗っかる等、危険なこともあります。主従関係を意識させるような態度が必要です。

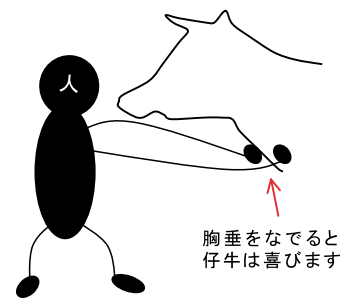


図17 仔牛の喜ぶ部位

(7) 乳牛の移動方法

ア 乳牛との位置関係

乳牛を追うとき（誘導するとき）のポイントは乳牛の肩のライン（図18中の点線）です。

<人間が立つ位置で乳牛の動きは変わる>

- A 乳牛の肩のラインより斜め後に立つと、前に動く
- B 乳牛の肩のラインより前に立つと、後ろに動く
- C 真後ろから接近すると、乳牛が振り向き別方向へ移動する

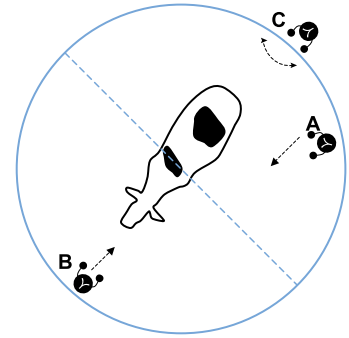


図18 乳牛との位置関係

イ 乳牛の移動方法

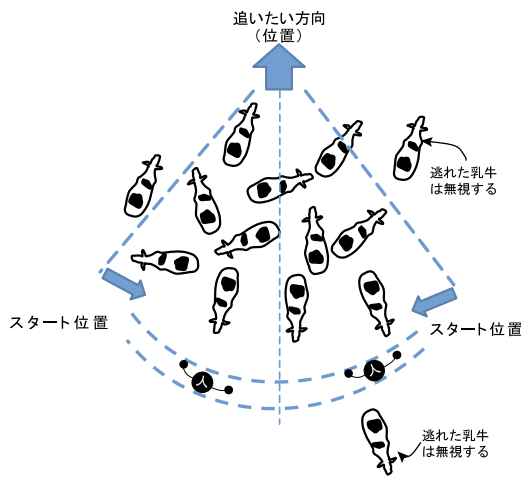


図19 乳牛の移動 1

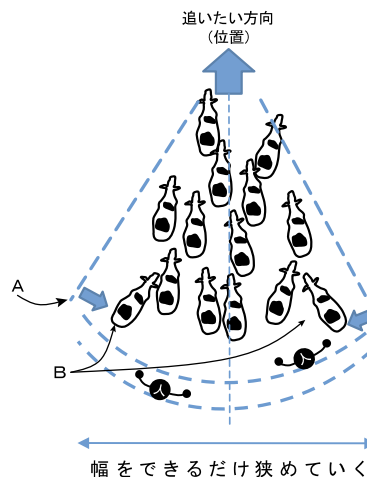


図20 乳牛の移動 2

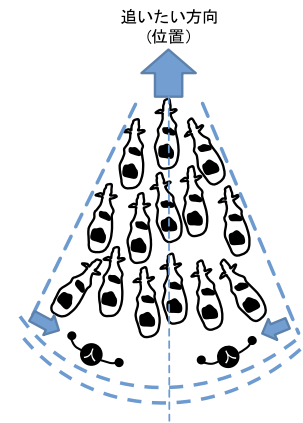


図21 乳牛の移動 3

移動は個体で追うよりも、群で移動させた方が短時間で済みます。

群の後ろに人間がまわり、追いたい方向からみて扇形になるように大きく手を広げ誘導します（図19）。この時、扇形から外れる乳牛も現れますが、大きく外れた乳牛は後で追うことにします。

また、乳牛を走らせないようにゆっくりと誘導します。

効率的な方法は、リーダー牛を見つけ、その牛を動かし群の乳牛がついていくように仕向けます。人間は群から外れる牛がないように監視をしつつ、図20中“A”の点線を狭めるように追っていきます。

- ① 追う人間はグループの端にいる乳牛を移動させます（図20中“B”の乳牛）。
- ② 徐々に幅を狭くし、目的の方向に誘導します（図21）。

<牛の位置を前方にずらしたいとき>

- ・声をかけ、お尻を軽くたたく
- ・しっぽを持ち、クルリと曲げる
- ・副蹄の下をつま先でつつく

(8) 乳牛の捕獲

ア 施設内での捕獲

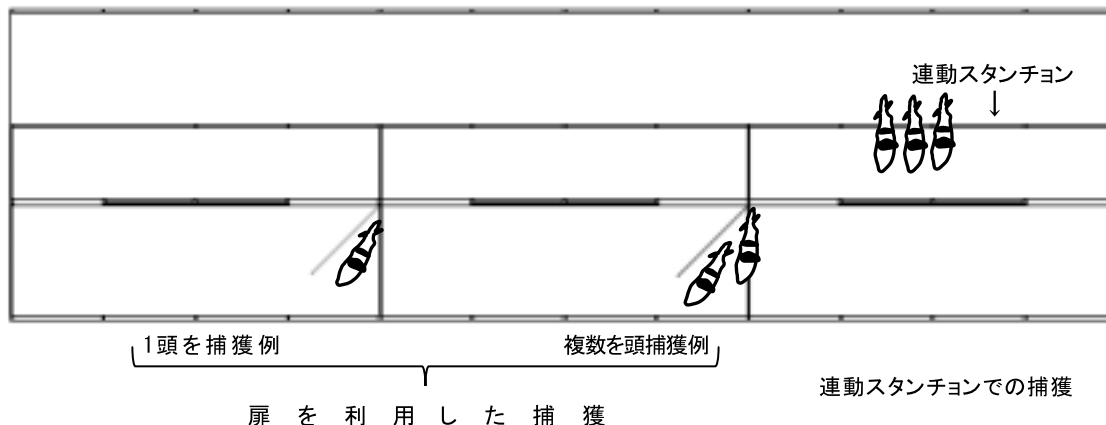
捕獲するときは広いところから狭いところへ追っていきます。

狭いところの先は暗くせずに、開放感を持たせた方が警戒感が薄れ進入します。

状況に応じて複数頭を群れで追い込み、捕獲したい乳牛に警戒感を持たせない手法もあります。

下図は扉や連動スタンション（写真7）での捕獲例です（図22）。

図22 育成舎での捕獲例



イ “もくし”を使った捕獲

図23は“もくし”を掛ける例です。

掛ける時は“もくし”の乳牛の鼻に入る円を前にし両端を左右の手で持ちます。耳の後ろから静かに鼻の前に“もくし”を持って行き、素早く通します。

初めての作業は乳牛の動きも加わるため、要領を得づらいことでしょう。慣れた方の要領を見て、真似をするところから始めてください。



図23 もくしを掛ける例

“もくし”を掛けた乳牛を引く時に注意すべき事は、絶対に引いてるロープを手に巻き付けません。急に乳牛が走り出した時に巻き付いたロープがほどけず、ケガをする原因になります。

引く時はロープを短めに持ちます。どうしても動かない場合は多少長めに持ち、乳牛との距離感をとります。動き出したら、短めに調整します。

引いている人より前進しすぎそうな場合は、平手で鼻を叩き、動きを抑制します。



写真7 連動スタンション



写真8 もくしを掛けた乳牛